

2014年度(平成26年度)事業計画

 **中期事業方針**

当会は、会員や支援者の輪を広げ、繋がりを深めながら、以下の中期事業方針に基づき各種事業を計画・実施し、その具体的な成果を共に分かち合います。

1

「社会の発展及び自立は基礎教育の充実から」という考えに基づき、拡大する格差による貧困に苦しみ、教育施設の未整備なカンボジアやネパール等の開発途上国における学校建設を積極的に進め、『国連ミレニアム開発目標』にある、普遍的初等教育の達成に寄与します。

2

教育支援活動として、音楽・美術・衛生教育等に必要の人材育成に力を入れます。特に、カンボジアの全ての子どもたちが学校で音楽や美術を学び、豊かな情操を育むことができることを目指し、教育課程や教材の整備を積極的に進めます。

3

子どもの健全育成を図る教育支援活動に必要な楽器、教材等の支援物資を積極的に集めます。

4

教育支援活動の一環として、生活と就学が困難で養護が必要な当会の支援及び交流のある海外の子どもや、日本で研修や留学を希望する教員や学生などを支援します。

中期事業方針

5

当会及び協力団体の支援先にボランティアを派遣し「日本人の顔の見える援助」を行い、同時にそれを通じて次世代を担う日本の若者の「地球市民教育」を実践します。

6

他団体やボランティアと情報交換を密にしながら、国内外の災害時には、平時から募集する災害時の初動資金を元に、メンバーの派遣や後方支援などの貢献をします。



7

当会の財産である、共働学習経験や国際協力・多文化理解・共生などの豊富な実践的な専門知識を活かして、『国際ボランティア・カレッジ』を継続運営し、「国際ボランティア市民」としてグローバル社会で生きることを志す人々に、国際NGOにふさわしい学びの場を提供します。

8

NGOネットワークに参加し、人権の擁護又は平和の推進、教育の質向上を図る活動や提言を行います。

9

機関紙やホームページ、報告会等を通じて当会の活動を広報すると共に、ボランティアや地域サポーターをはじめ、あらゆる支援者と繋がり深めながら、JHPが目指す国際協力や教育支援活動の理解者を増やします。

10

各種募金活動、認定NPO法人の積極的な宣伝を行い支援者の拡大を図ります。また、事業の透明性の確保、個人情報保護や危機管理の徹底、事業実施や運営能力の向上に努めることにより対外的な信頼を深め、より安定した運営基盤を築きます。

1-1 学校建設事業(カンボジア)

19

※プロジェクトの背景はP.7参照

目標	●カンボジア政府の教育予算では対処しきれないが、支援の必要性・緊急性の高い学校を調査し、教育環境の改善に即応する。具体的には、カンボジア国内の不完全校(定められた学年まで授業を行えない学校)の減少、安全を確保できない老朽校舎の減少を目指す。また、教師の質向上に資する施設建設を目指す。 ●長期にわたって利用可能な丈夫な学校をつくり、維持管理を徹底させることにより、教育環境の整ったモデル校を普及させる。
中期事業計画 (2012～2014年度)	1)新校舎建設30棟、洪水被害等により必要な校舎修理を実施する。 2)300棟目の校舎建設を20周年事業の取り組みとする。【2013年度に完了】 3)国境周辺の遠隔地など、地域を限定した教育環境改善への取り組みに着手する。 4)2011年度までに建設した校舎の状態、活用状況、成果等の調査を行い、必要に応じた指導や継続支援を行う。
事業名	2014年度の活動内容、目標など
小・中学校建設	1)調査に基づき特に遠隔地の優先度の高い小学校、教室数不足の中学校など12棟を建設する。 2)新規建設校に対して、トイレ、給水施設など付帯設備、学校備品、学習教材等を必要に応じて支援する。 3)新規校舎や付帯設備の支援に関連づけて、維持管理指導、衛生指導(トイレ利用、校内美化等)を行う。 4)上記3)の衛生指導に必要な教材として、当会作成の「衛生教本」を各校50冊配布する。 5)建設校や候補校の視察、交流、贈呈式参列を希望する支援者をコーディネートする。
教員養成校建設 専門家派遣	学生寮や多目的教室棟などの建設ニーズを調査する。 丈夫で長期間使用可能な施設建設と建設後の維持管理方法の助言を得るために専門家(一級建築士)を派遣する。
特定地域支援	教育環境の整備が立ち遅れている特定地域を調査し、校舎支援を実施する。2014年度は、プレイベン州コンポントラバイ郡、ビームチョー郡、新規としてバットンバン州、クラチエ州を予定。
全棟調査	1)2011年度までに建設した約280棟の調査を完了させ評価を行う。 ①校舎建設の成果確認(生徒数増減、退学率の増減、地域発展などへの影響、住民へのインタビュー) ②校舎状況確認(特に築10年以上の校舎に発生した問題点を今後の新規建設の改善点として活かす) ③付帯設備(トイレ、井戸、ソーラーパネル等)、備品(机、椅子、黑板等)の活用状況を確認する。 2)調査校に関する情報管理を徹底し、今後のプロジェクトへの活用、支援者への報告を行う。
継続支援	1)全棟調査等で確認したニーズに対して継続支援を行う。その際に、学校予算の活用状況も併せて確認する。 2)既建設校の視察や交流を希望する支援者のコーディネートを行う。
プロジェクト改善	全棟調査および、2013年度の衛生強化事業を踏まえて、学校建設事業プロジェクトの改善を図る。

1-2 学校建設事業(ネパール)

19

※プロジェクトの背景はP.9参照

目標	劣悪かつ危険な校舎の建替え、また教室不足解消のための新築により、教育環境の改善を目指す。
中期事業計画 (2012～2014年度)	1)新校舎を5棟建設する。 2)ニーズに応じて支援を継続する体制を整える。
事業名	2014年度の活動内容、目標など
学校建設	新規建設校として、ラクスマー学校2階(4教室増設)、ゴダマラ学校(3室)、サラソティ学校(2室)の3棟を建設する。
支援体制構築	支援実績をもとに活動地域を広げていく。

2 教育支援事業

教育支援事業の背景	カンボジアは長期にわたる内戦により、教育環境が破壊された歴史を持つ。内戦終結後、国連やその他援助機関の支援を受けて、自立・復興への道を歩んできた。現在では、児童の就学率は上昇傾向にあり、教育環境や内容の充実を目指す政策も見られるようになってきた。しかし、依然として2部制授業が主であり、授業時間が絶対的に少ないことにより、子ども達が情操教育に触れられる機会は少ない。
-----------	---

2-1 音楽教育支援

23

※プロジェクトの背景はP.11参照

目標	カンボジア国内のすべての子供たちが学校で音楽を学び、豊かな情操を育むことができる。
中期事業計画	当会がこれまで力をいれてきた現場レベルでの音楽教育の普及を継続しながら、新たな取り組みとして初等教育における生活技能プログラム指導内容作成を目指す。
事業名	2014年度の活動内容、目標など
プレイベン州コンポントラバエク郡での音楽教員育成事業	対象地域:カンボジア王国プレイベン州コンポントラバエク郡 実施期間:2014年1月～2016年6月(2年6ヶ月間) 対象校数:クラスター中心校9校 【上位目標】 対象校内で音楽教育が実施され、多くの子ども達が音楽教育を受ける機会を得る。

	【プロジェクト目標】 1. 対象校児童を取り巻く教育関係者及び保護者の音楽教育に対する理解が深まる。 2. 対象の教員の音楽指導能力が向上する。 【成果】 1.教育関係者が音楽教育の重要性について理解する。 2.トレーニングに参加する小学校教員の音楽教育に関する知識が深まり、指導力が向上する。 3.対象校のトレーニングを受けた教員の担当クラスにて、社会科及び生活技能プログラム(LLS)の時間を使った音楽教育が実施される。 4.地域住民や保護者が音楽教育に対する理解を深める。
生活技能プログラム(LLS)の時間を用いた初等教育音楽指導内容案構築事業	対象地域:ブレイベン州 実施期間:2014年4月～2015年9月(1年6カ月) 【上位目標】 対象地域となるブレイベン州の対象小学校でより多くの子ども達に適切な内容の音楽教育が指導され、子ども達のクメール語能力が向上する。 【プロジェクト目標】 対象のモデル小学校の子ども達が自身の発達段階に合った音楽教育を受けることができる。 【成果】 1.カンボジア教育関係者及び音楽専門家によって、音楽の指導内容作成のためのワーキンググループ(WG)が設立される。 2. WGのメンバーが音楽教育の重要性について理解を深める。 3. WGメンバーによってLLSの時間を用いた各学年に合わせた音楽教育カリキュラムの構成(目的、内容の枠組み)が検討される。 4. WGによって、音楽教育カリキュラムの構成に沿った各学年の内容が検討、作成される。(楽曲及び各時間の活動等) 5. モデル小学校にて、作成された音楽教育カリキュラムが試用される。 6. カンボジア教育省によって、初等音楽教育カリキュラムが認識され、対象地域の小学校で試用するための許可が下りる。
音楽コンテスト実施準備	2015年度にブレイベン州にて実施する音楽コンテストの開催準備を行う。
その他	1)音楽教育普及のための楽器配布 2)熊本県海外研修参加者との連携

2-2 マーチングバンド支援

プロジェクトの背景	小中学校のクラブ活動(課外授業)の一環として、2000年に小山内代表の寄付と当会が募集した中古楽器により支援が開始された。2003年からは当会事業に移行。2007年にはワットブノン高校マーチングバンドが徳島での国民文化祭、JHP15周年記念式典に出演。2009年12月にはマレーシアで行われた世界大会に出場した。2012年には、ブノンベン市の4校の高校でもカンボジア有権者、政府のマーチングバンド活動が開始されており、現在マーチングバンド活動を実施している学校は、ブノンベン市内で6校、カンダール州1校、クラチエ州1校、タケオ州1校、シェムリアップ1校の計10校。
中期事業計画 (2012年～2014年度)	【上位目標】 教育関係者及びブノンベン市内のより多くの人々がマーチングバンド活動について知り、青少年育成活動としてマーチングバンド活動を実施する学校が増える。 【事業目標】 対象校のマーチングバンド活動が強化される。
事業名	2014年度の活動内容、目標など
マーチングバンド事業	【成果目標と活動内容】 1. 学校内でマーチングバンドへの理解が深まり、マーチングバンドの運営能力が身に着く。 ①各対象校の学校長とマーチングバンド活動に関するミーティングを実施する。(問題点をシェアし、学校側からの解決策を提示してもらう) ②学校行事にマーチングバンドの演奏を組み込む。 2. 対象校のマーチングバンド演奏能力が向上する。 ①各対象校で4月から8月まで、月3～4回3時間の練習を行う。 ②月2回インストラクター及び教員とのミーティングを実施する。 ③年1回マーチングバンド専門家を派遣し、トレーニングを行う。(インストラクター及び生徒の能力向上) ④JICA青年海外協力隊派遣制度を利用し、JHPもしくはブノンベン市教育局にボランティアを派遣し、インストラクター及びメンバーへの指導及びイベントの企画立案をする。 ⑤年1回ブノンベン市内においてマーチングバンドパレードを開催する。(生徒のモチベーション向上) ⑥青年海外協力隊員と協力し、カンボジア国内のマーチングバンド実施校を対象に発表会を開催する。 ⑦ブノンベン市教育局と連携を図り、教育省やその他の機関が主催する様々なイベント活動の情報を集める。 ⑧日本での楽器集め活動の他に、他国から中古楽器の支援が得られるか模索する。 3. マーチングバンド活動を通して、参加する児童生徒が責任を持って活動に参加することができる。 ①メンバーが自立して活動を実施できるように、生徒自身でミーティングを実施するなど、組織体制を作る。 ②4半期に1度、日々の生徒の活動参加に対するポイントを集計し、表彰する。 ③マーチングバンド活動の規律を作成する。

2-3 美術教育支援

最終事業目標	カンボジアの全ての子ども達が学校で美術を楽しく学ぶことを通して、豊かな人間性を育むことができる。
事業目標と 中期事業計画	1.小学校へのアプローチ 1)初等教育美術教育プロジェクト(2012年4月～2014年6月) 対象地域:スヴァイリエン州、カンボット州 【上位目標】 ①対象郡の子ども達の想像力、創造力が向上する。 ②対象郡の子ども達が継続的に学校に行くようになる。 【事業目標】 対象の小学校の美術教育の質が高まり、より多くの子ども達が美術教育に触れる機会を得る。 2)学校内美術教育普及事業(2014年6月～2015年9月) 対象地域:スヴァイリエン州、カンボット州 【上位目標】 対象校の子ども達が学校へ継続的に通い、子ども達の想像力、創造力が向上する。 【事業目標】 対象校の学級担任がローカルライフスキルプログラムの時間を通して、子ども達に美術教育を指導することができるようになる。
事業名	2014年度の活動内容、目標など
小学校へのアプローチ	1)初等教育美術教育プロジェクト(2012年4月～2014年6月) 【成果目標】 ①教育関係者が美術教育の重要性について理解する。 ②トレーニングに参加する小学校教員の美術教育に関する知識が深まり、指導力が向上する。 ③対象校内で、社会科及び生活技能プログラムの時間を使った美術教育が実施される。 ④地域住民や保護者が美術教育に対する理解を深める。 【2014年4～6月までの活動内容】 ・絵画展表彰式(2014年4月下旬) ・美術授業モニタリング(2014年5月) ・事後調査(2014年5月～6月) ・事業評価(2014年6月) ・最終ミーティング(2014年6月) 2)学校内美術教育普及事業(2014年6月～2015年9月) 【成果目標】 ①事業関係者(州教育局職員、郡教育局職員、美術教員(5)、対象校校長(5)、TTC教員)によって、学校内での美術教育トレーニング内容のプログラムが明確になる。 ②対象校の学校長が、学校内で美術教育実施のためのマネジメントスキルを身につける。 マネジメントスキル(全クラスに対する時間割表作成能力/学校内美術イベント、活動の開催ノウハウ/学校内研修のスケジュール作成能力 等) ③美術教員(これまでJHPトレーニングを受けた教員)が学校内研修にて、他教員をトレーニングすることができる能力を身につける。 ④郡教育局職員が対象校内研修のフォローアップ(モニタリング)を実施することができる。 ⑤対象校の学級担任が担当学級の子ども達に美術教育する十分な技術及び知識を得る。 ⑥対象校でローカルライフスキルの時間を通した美術教育及び、美術イベントが実施される。 ⑦対象校の子ども達の美術教育を学ぶためのモチベーションが高まる。
教員養成学校への アプローチ	1)画材支援 ①スヴァイリエン州、カンボット州の教員養成学校で美術授業を実施することが出来るように画材を寄贈する。 2)巡回絵画展への出展依頼 ①2014年度の絵画展の説明を行い、絵画展への作品出展を依頼する。 ②各校から出展された絵画の作品審査を行い、賞を決定する。 ③新対象地域(スヴァイリエン州、カンボット州)での絵画展実施後、対象校に対し画集を寄贈する。

2-4 児童養護施設等支援

目標	中期事業方針(4)の達成。CCHIについては、子ども達が将来にわたり安心して生活や就学ができるように、運営費や教育基金の支援を行う。同時に、必要とされる教材、生活用品等を支援する。
中期事業計画 (2012～2014年度)	1)CCHIについては、第2期支援(2009～2014年)を継続する。また、第2期支援の評価を行い、第3期支援の必要性や内容について検討する。 2)カンボジアからの研修生等の受け入れについて、日本の支援者側の情報を収集し、具体的な実績をあげる。
事業名	2014年度の活動内容、目標など
児童養護施設支援	1)12年目(第2期支援の6年目)の支援として、現在90名の子ども達を抱えるCCHの運営費(15,000ドル)、教材、生活用品等を支援する。契約期限は、2014年9月30日まで。 2)中期計画に掲げている第2期評価を行う。 3)CCHの子どもが日本での職業訓練や研修機会を希望する際に受け入れに協力する。
研修サポート	日本での職業訓練や研修、ホームステイ等を希望する教員や学生の受け入れに必要に応じて協力する。特に、熊本県海外技術研修員制度に申請する教師を当会より推薦する。



※プロジェクトの背景はP.13参照



※プロジェクトの背景はP.14参照

3 ボランティア派遣/ 災害復興支援事業

5

6

9

※プロジェクトの背景はP.15、17参照

目標	中期事業方針(5)、(6)、(9)の達成。また、当会に賛同する組織を受け入れることにより、地球的視野を持つ人材を幅広く育成する。同時に、参加者それぞれが現地経験を活かす場として、JHPの各種活動(特にイベントや広報)に積極的に参加してもらう体制を作る。
中期事業計画 (2012～2014年度)	1)カンボジア隊派遣を継続する。但し、学生を取り巻く環境の変化を考慮し、派遣時期や活動期間を検討する。 2)当会に賛同する組織の受け入れ、会員や支援者の輪を広げる。特に大学の単位認定に繋がるプログラム構築に協力する。 3)緊急救援を含めた国内外派遣については、東日本大震災の支援・復興活動を継続。その他の派遣は、通常業務と並行してより多くの派遣実績を上げられるようにプロジェクト体制を整備する。
事業名	2014年度の活動内容、目標など
カンボジア隊	年1回、15名(役職員1名、学生12名、社会人2名)を派遣する。 ■8月隊:2014年8月8日～8月25日
賛同組織受入	東京未来大学ボランティアプログラム等の受け入れに協力する。
緊急支援を含めた国内外派遣	1)東日本大震災:宮城県南三陸町の災害ボランティアセンターや他の組織、町民と連携して、復興に必要とされる精神面での支援、施設や備品、植樹の支援を行う。また、同町の復興の人的貢献としてボランティアメンバーの派遣を継続する。(派遣回数7回、日数23日、人数40名を目標) 2)緊急支援:当会が支援対象とする地域や規模、支援内容を明確に定め、その範囲において災害救援基金を初動資金とした調査、活動を実施する。また、必要に応じて災害救援基金を呼びかける。 3)支援体制整備:緊急支援時にも通常業務が安定して継続できるようなプロジェクト体制を準備する。 4)その他:関係諸団体等の要請や情報を得ながら、必要とされる国、地域にボランティアを派遣する。

4 啓蒙活動事業

3

7

9

目標	中期事業方針(3)、(7)、(9)の達成を通じて、当会の活動に必要な財源確保、人材育成、各種募集を行う。
中期事業計画 (2012～2014年度)	基本的には2012年度の事業を継続する。中期事業として特記すべき内容は以下の通り。 1)20周年事業関連 ①2013年9月に満20年を迎えるにあたり主催イベントを実施する。【2013年度完了】 ②学校建設300棟記念に関連して、贈呈式に参加する記念ツアーを実施する。【2013年度完了】 ③2013年秋を目標に当会ホームページをリニューアルする。【計画中止】 ④2013年度の活動記録集を20周年記念号とし、特集記事を掲載する。【2013年度完了】 ⑤顕著な活動実績のある「地域サポーター」には、20周年関連事業等への参画を促す。 2)小山内美江子 国際ボランティア・カレッジ 例年の実績に準じ国内講義、カンボジア現地研修を継続運営する。 3)広報 会報のカラー化を皮切りに、紹介ビデオ等の広報ツールを全体的にリニューアルする。 4)絵画募集 日本の学校からカンボジア絵画展への応募作品を募集し、両国の子ども達の文化交流を促進させる。 また、各種活動紹介の機会を活用し日本でカンボジア絵画展作品を展示する。 5)地域ネットワーク 2014年度末には、各都道府県1名以上のサポーター体制を整える。
事業名	2014年度の活動内容、目標など
チャリティーイベント	1)天満敦子氏ヴァイオリンコンサートVol.10 記念すべき第10回目としてピアニスト今川映美子さんにご協力いただき伴奏付コンサートを開催する。今後も安定的に開催するために毎回ご来場くださる固定客以外に新規の来場者を獲得しJHP自体の支援者獲得につながることを目標としたい。来場者が国際支援への関わりを実感し、カンボジアの音楽教育プロジェクトの支援に繋げることを目的とする。 来場者は450名(内、新規来場者50名)を目標とする。 ■日程:2014年7月5日(土)、場所:津田ホール 2)チャリティーオークションパーティー(CAP)2014 JHPの活動理念である「教育の機会を奪われた世界の子どもたちへの援助」を推進するために、楽しみながら国際協力に参加できる機会とし、収益はカンボジアの教育支援に役立てることを目的とする。 ■日程:2014年12月1日(月)、場所:アグネス ホテル アンド アパートメンツ 東京 3)他組織主催イベントへの参加、協力 当会支援の目的で行われる他組織のイベントに対して、求められる範囲で協力する。
スタディツアー	1)JHPスタディツアー 当会の主な活動地であるカンボジアを紹介しプロジェクトを理解してもらうためのツアーを年1回実施する。 ■日程:2014年12月 参加者目標:10名以上

報告会	1)海外ボランティア活動参加者による報告会を年2回(5月、10月)実施。その際に次回派遣の説明も行う。 2)前年度申請の助成金を通った場合は、国際協力を事例とした青少年育成のための展覧会と報告会を実施する。 3)海外駐在員やローカルスタッフ、専門家の帰国報告会を実施する。(年3回程度)
機関紙発行	会報を通して会員や支援者へ活動報告・各種広報を行い、当会の活動への支援を呼びかける。同時に、当会の活動実績の記録資料とする。2014年度の発行概要は以下の通り。 1)会報を年2回3,500部発行する。 2)会報カラー印刷の継続。(2012年3月発行の第57号から導入) 3)透明封筒使用により開封率を高める。 4)希望者に対して会報データのPDF送信を促進。年間20件の増加を目標とする。(2013年度末現在27件)
記録集発行	1)会員への報告として、ボランティア派遣活動及び特集をまとめた冊子を編集し、2014年12月に発送する。 2)ボランティア希望者や支援者拡大のツールとして、イベントでのバックナンバー配布、大学の図書館への配架などを積極的に進める。
ホームページ	1)現ホームページ(日本語・英語)を定期的に管理更新し、当会の活動詳細を広報し、具体的な寄付や参加を呼びかける。2014年度はアクセス数増加を目指し、ユニークユーザー数100/日を目指とする。 2)今後のリニューアルを目指し準備を進める。
広報ツール制作	1)リーフレット:掲載情報を更新しつつ在庫7,000部を有効活用する。また今後の刷新に向けて準備を進める。 2)活動紹介ビデオ等:紹介ビデオ、パワーポイント資料を有効活用し、会員・寄付者の増加に繋がるツールとする。特に、講演会、企業への提案、学校対応、オリエンテーション等で、最近の活動を映像や写真で効果的に伝えることを目的とする。
メールマガジン	活動に関心を持っている幅広い層に向けて、情報を伝えるメールマガジンを隔週ペースで発行する。配信件数の目標を1,200件とする。
オリエンテーション	新規問合せの方に当会活動を紹介し、会員・支援者の新規獲得および活動への参加を促す。 開催は、毎月第1水曜日(18:30～19:30)と第3水曜日(18:30～19:30)を予定。
各種講義・講演	日本各地の組織、団体の依頼に応じて、当会活動や国際協力に関する講義を積極的に行う。
イベント出展	主催事業も含め、各地のイベントに年15回程度参加し、活動の宣伝を行う。同時に、海外活動に関連した製品や図書等の物販を行う。
カレンダー・ポストカード販売	1)当会のオリジナルカレンダーを制作し、販売や宣伝活動を通じて当会の広報を行う。制作部数は約1,200部、販売目標は800部とする。 2)カンボジアの子どもが描いた作品を使用したポストカードを販売/寄贈することを通じて、JHPの活動、特に教育支援事業(美術)の広報を行うとともに、寄付や会員の増加を目指す。
絵画募集	1)当会美術教育支援事業の広報の機会、絵画を通じた日本の子どもの国際交流促進を目的として、第13回カンボジア絵画展に出展する日本の小学生以上の絵を募集する。(目標:300点) 2)各種イベント、活動紹介の機会を活用し、日本国内でカンボジア絵画展作品を展示する。
支援物資募集及び海外輸送	1)各種事業に必要な教材・備品(楽器、新品の画材、机・椅子、自転車)を募集し、カンボジアに輸送する。 2)東京事務所にて随時楽器清掃ボランティアを受け入れる。また、月に1～2回の割合で楽器清掃日を設ける。 3)江東区及び海外リサイクル支援協会との三者協働事業を継続し、中古机・椅子の輸送を行う。
地域ネットワーク	1)各地域の会員から「地域サポーター」を募集し、広報モニター、資料配布、事務局への情報提供の3つの活動を各地域で担ってもらう。年度末のサポーター数は各都道府県1名以上とする。 2)サポーターからの連絡や情報をもとに、「地域に根ざした活動」を事務局でフォローする。
小山内美江子 国際ボランティア・カレッジ	第9期目となる「国際ボランティア・カレッジ」を継続運営し、グローバル社会で生きることを志す人々に、国際協力NGOにふさわしい学びの場を提供する。第9期は、受講生30名、聴講生250名を目標とする。 1.講義:2014年9月～2015年3月まで約50回。週1回(土曜日)に2コマ実施する。 2.カンボジア研修:JHP主催のスタディツアーへの参加を促す。
コーディネート	当会事業の見学や交流会を希望する会員、企業、団体、個人を受け入れ、当会の活動を積極的に紹介する。



5 組織運営

8

9

10

目標	中期事業方針(8)、(9)、(10)の達成。
中期事業計画 (2012～2014年度)	1)財源確保 ①会員の増加:2014年度末の会員総数1,100人、会費収入は3年間で1,500万円を目標とする。 ②寄付件数の増加:寄付件数は、各年度1,200件以上を目標とする。 ③企業・組織との連携を含め、財源確保に繋がる具体的な活動を新規で5つ増やす。 2)協力団体提携 提携先からの情報や各種連携事業により、中期事業方針に掲げた活動を充実・発展させる。 3)各種会議 各会議の繋がりを重視し、重複を避けることにより、効率良い会議運営を目指す。 4)事業評価 過去に実施した評価から得た教訓等を中期事業計画に活かし、活動を充実・発展させる。 5)運営管理 ①中期計画の進捗管理、アカウントビリティ・セルフチェック(ASC)2008達成と管理、ASC2012への更新を行う。 ②平時から役職員の情報共有を図り、現体制での事業対応能力を向上させる。 ③緊急時の事務局運営の対応マニュアルを完成させる。 6)職員教育 「役職員研修ガイドライン」による研修活用率(予算、時間)を各年度50%以上とし、運営能力を向上させる。
事業名	2014年度の活動内容、目標など
財源確保	1)当会が「認定NPO法人」であることの広報を積極的に行い、新たな支援者を集める。 2)学校建設、教育支援事業に関する対外的な提案活動を年間20件(個人、組織等)行う。 3)当会ホームページを活用した決済システム利用を普及させ、会員、寄付者の増加に結びつける。 4)会員数を増加させるために、年間400件(個人、組織等)以上の入会依頼を行う。具体的には、当会がコーディネートしたカンボジア訪問者、支援物資寄贈者を中心に依頼を行う。 5)助成金の情報を積極的に収集し、年間10件の申請を行う。 6)財源確保の手段として以下の活動を実施する。 ①書き損じハガキ、未使用切手、未使用テレホンカード等の募集。書き損じハガキは年間10,000枚を目標。 ②500mlの空パックを再利用したリサイクル募金箱シール配布(年間50枚)。 ③「JHP・藤原紀香カンボジア子ども教育基金」と連携して支援者を集める。 ④「アメリカン・エクスプレス・インターナショナル、Inc.」ポイント寄付プログラムと連携し支援者を集める。 ⑤「募金型自動販売機」設置による寄付獲得に取り組む。(年間3台) ⑥古本等による寄付プログラム「Book Smile」を継続運営し、寄付収入を増やす。(寄付額200,000円) ⑦資金調達ボランティアチーム編成と実践活動コーディネートを行う。
協力団体提携	プロジェクト及び組織運営に関連した情報を収集するために、以下の団体との協力関係を深める。 JEN、アフリカへ毛布をおくる運動(毛布収集、モニタリングに協力)、地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)、カンボジア市民フォーラム、教育協力NGOネットワーク(JNNE)、国際協力NGOセンター(JANIC)、江東区(海外向け支援物資)、みなとボランティアセンター、独立行政法人国際協力機構(JICA本部・地球ひろば)、港区(防災、平和教育等)、災害時の緊急募金時の支援団体(随時検討)他
各種会議	会員総会(年1回)、理事会(定例年5回)、運営協議会(年13回)、国際ボランティア・カレッジ教務会議(年6回程度)、事務局スタッフミーティング(月1～2回)
事業評価	1)2008年度実施した学校建設事業、2010年度に実施した教育支援事業の内部評価の結果を事業に反映させる。 2)学校建設の全棟調査の継続、CCH支援の評価を行う。
運営管理	1)2012年度に作成した中期計画(3ヵ年:2012～2014年度)に沿って活動を行い、2015年度以降の中期計画を作成する。 2)2009年度に実施した「アカウントビリティ・セルフチェック(ASC)2008」の諸条項のうち、クリアできなかった項目を改善させる。同時に、新たにスタートしたASC2012への更新を行う。 3)事業運営の継続体制を高めるために、情報共有のための内部勉強会を年3テーマ実施する。 4)当会の歴史、実績に関する各種情報や写真のデータ化を検討し、着手する。 5)東京事務所を有効に活用し、役職員とボランティアの繋がりを深め、各種事業や活動を活発にさせる。 6)事務局運営やボランティア対応などを担う定期ボランティアを増やす。(目標10名) 7)ボランティア派遣後のフォローアップとして、OBやOGのリストを整備し、随時活動への参加を促す。
職員教育	2010年度に作成した「役職員研修ガイドライン」にそって、自主的な研修参加を奨励し、団体理念の達成や事業実施や運営能力の向上に寄与できる人材の養成を積極的に行う。